



心に希望を灯す言葉

校長 井之上 良一

先日、11月1日(金)に本校文化祭が開催され、多くの保護者や地域の皆様方の御観覧の下、11人の生徒一人一人が良き個性や協力性を発揮し、創意にあふれた発表を行うことができました。また、当日は、土橋応援団の皆様方やトランペット・ピアノ奏者の方々の賛助出演もあり、舞台発表に華を添えていただきました。皆様方の多大な御支援、御協力に心から感謝を申し上げます。

さて、「熊本県いのちの懇談会」という市民団体の代表を務めていた方に、野尻千穂子さんという女性がいます。

彼女は、11歳の頃から原因不明の麻痺で歩くのが困難となりました。12歳の時、脊髄手術の失敗により致命的なダメージを受け、以来車イスでの生活を余儀なくされることとなります。そのことが分かった時、彼女のお母さんは、絶望のあまり病院の屋上から飛び降りることを決意します。彼女を道連れに死のうと思ったのです。ところが、その時、彼女はこう言ったそうです。

「これがわたしに与えられた人生なら、わたしは死なない。」

彼女は、長じて一人の青年と出会い、結婚を決意します。青年も脳性麻痺で足が不自由でした。破局を恐れた両親は、結婚に強く反対します。しかし、キリスト教を信仰していた彼女は、神の愛を信じ、やがて人々の祝福のうちに教会で挙式を挙げました。まもなく彼女は妊娠しますが、そこでまた大きな決断を迫られます。

「障がい者が生まれるかもしれない。」

と医師が言い、周囲の者も彼女の命の危険を思って、出産に大反対をしました。しかし、彼女は、

「たとい、自分は死んでもいい。ひとつの新しい命を生み出すことができれば。」

と言ったそうです。そして、御主人はこう言いました。

「万一、障がい者が生まれても、仲間が一人増えたと思えばいい。」

こうして、やがて健やかな娘さんが生まれました。母を助けてよく働くこの娘さんは、大きくなってから次のように語っています。

「どこの家に生まれるよりも、この父母の子に生まれてよかった。」

彼女の言葉といい、御主人の言葉といい、娘さんの言葉といい、どの言葉も家族を思う気持ちと慈愛に満ちあふれています。

ところで、千穂子さんが絶望的な状況にありながらも、生きる希望を失うことがなかったのはなぜなのでしょう。その答えを導き出すことは簡

単なことではありませんが、千穂子さんを支え、育てた御両親の愛情の深さと考えの幅の広さが関係しているのではないかと思います。

というのも、彼女は講演の中で決まって父親のある言葉を紹介し、親の恩に報いるために懸命に生きてきたと述べているからです。その言葉とは次のようなものです。

「千穂子は、障がいがあっても私の子どもに変わりはない。障がいがあることは恥でもなければ、悪いこつでもなか。負けたらいかん。ひねくれたらいかん。勇気ばもって生きていけ。」

父親のこの言葉が彼女に存在感と生きる勇気を与え、心に希望を灯すきっかけになったことは想像に難くありません。

よく人生で最悪の出来事でも、選択次第で、あるいは考え方次第でどのようにでも意味づけられるといわれます。しかし、実際に不幸や困難に直面すれば悲観的となり、親といえどもなかなかこうは言えないのではないかと思います。その意味で、人は信仰であったり、経験に裏打ちされた知恵であったり、教養であったり、生きる寄す処(よすが)とすべきものを持つ努力を怠ってはならないということを教えられているような気がします。



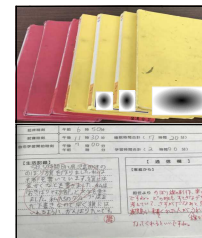
『生活日誌』のよさを見直してみませんか!

毎日、生徒が何気なく提出している『生活日誌』。その機能や役割は、意外なほど大切なものがあります。ある研究によれば、教師側から見ると、①生徒理解のための手がかり(いろいろな出来事と出来事に対する生徒の思い、心配事や悩み、体調面、決意や今後への期待、友人関係がわかるなど)②生徒とのコミュニケーションの手段(生徒の記述を読み取り、受容したり、広げたり、励ましたりするなど)といった役割が認められます。

一方、生徒側から見ると、①一日を思い出し振り返ることにより記憶力が向上する②文章を記述するという創造的な行為は脳の力を鍛える③手を動かして書くという作業が脳を刺激してストレスの解消につながる、書くことで気持ちを整理することができる④積み上がって貯まっていく日誌は、自分の自信につながる⑤悩みや困りごとを伝え、援助を求めることができる⑥まとまった文章を書く力が高まる(話す力にもつながっていく)などのよさが挙げられます。また、本校の『生活日誌』の場合、「起床時間」「自宅学習開始時間」「就寝時間」を記入する欄や自主的な内容の宅習をするページがあり、自己管理能力の向上や自主学習にも役立てることができそうです。

これらのことから『生活日誌』を毎日、丁寧に記入し、提出することは、生徒たちが規律のある充実した生活を送る上でとても大切なことだと言えます。

学校では、『生活日誌』の意義や重要性に鑑み、二学期から保護者の皆様方にもコメントの記入か、押印か、サインをお願いしているところです。我が子の様子を把握し、会話の一助としたり、子どもたちの励みとなりますよう、今後とも一層の御協力をよろしくお願いいたします。



文化祭 11/1



ビブリオバトル



ミュージカル「わらべ歌今昔物語」



全校合唱「愛の唄」



土橋応援団「きばれ つっぱし 地域の宝」



創作ダンス「青い風に吹かれて」



賛助出演 トランペット・ピアノ演奏

「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」「学校を見に行こう週間」に合わせて、文化祭を開催しました。生徒数11人のため、昨年度までのように学年ごとの創作活動はできませんでしたが、全生徒一丸となってミュージカルや創作ダンス、合唱などに取り組み、その成果を披露することができました。また、今回も土橋地区公民館・保護者による出演やさんとさんによる賛助出演をいただいたり、ビブリオバトルでは保護者・地域の皆様にも質問や意見をいただいたりと、一緒になって文化祭をつくりあげていただきました。生徒の頑張り、職員の熱心な指導、保護者・地域の皆様の御協力で、「咲かせよう 文化の華 令和で躍動 さわかイレブン」というテーマにふさわしい素晴らしい文化祭にすることができました。

保護者・地域の皆様の御感想

- 内容の濃いぎっしりつまった時間でした。誰もが一生懸命取り組む姿は美しい。こんな学校どこにもない。(土橋小とのつながりも大きい) がんばれ土橋中!
- みんな一人一人が主役になり、発表もどれも素敵でした。作品もどれも立派でした。楽しい時間を作って下さりありがとうございます。
- 11名の少ない生徒たちがとても感動する文化祭を作りあげたと思います。ひとりひとりが生き生きとしていて「土橋中で良かったなあ」と改めて思いました。

小中合同妙円寺詣り遠行 10/27



小中合同妙円寺詣り遠行を実施しました。今年も薩摩街道(古道)を通り、おもてなしもいただきながら、約6kmの道のりを全員で完歩しました。

燃ゆる感動かごしま国体「手づくりのぼり旗」作成



来年開催されるかごしま国体を応援しようと、アイデアの詰まった1府3県ののぼり旗を全生徒で分担して作成しました。

おめでとうございます

- 第43回妙円寺詣り大行進 完歩賞**
- | | | | |
|-----------------|------|------|-----|
| 3年 | さん | | |
| 1年 | さん, | | さん |
| 令和元年度第2回英語検定 | 4級合格 | | |
| 3年 | さん | 2年 | さん |
| | 同 | 5級合格 | |
| 1年 | さん, | | さん, |
| | さん | | |
| 第3回黎明の地ふるさと短歌大会 | 佳作 | | |
| 2年 | さん, | | さん |
| 1年 | さん | | |